



JAFIA 委員長退任にあたって

今任稔彦（元 九州大学工学研究院）

2018年2月末をもちまして JAFIA 委員長を退任しましたので、遅くなりましたが退任にあたり、本会会員の皆様並びに関係各位に、この場を借りてお礼を述べさせていただきます。

振り返りますと、2004年度に本会会誌であります J. FIA の編集委員長の任に当たりました。その後、前委員長の酒井忠雄先生の後任として、2012年度より本会委員長に就任しました。委員長としての実働期間は5年間でした。在任期間の5年の間には、大きな変革はできませんでしたが、JAFIA 創立30周年記念講演会が徳島大学において田中秀治先生を実行委員長として開催されました。1984年に本会の前身であるフローインジェクション分析研究会の創設時に、石橋信彦初代委員長の元で事務局のお手伝いをしましたので、この30周年記念会を委員長として迎えたのは、感無量でありました。在任期間の中で最も印象に残っているのは、2014年12月にアクロス福岡で開催しました第18回 ICFIA です。この国際会議の国内開催については、2008年に名古屋で第15回 ICFIA を開催された前委員長の酒井忠雄先生から詳細な資料をいただきましたので、そのお蔭で企画から運営までスムーズに進めることができました。財政的には、福岡コンベンションビューローや OPAC からの補助金を始め、本会賛助会員、維持会員の皆様から過大な賛助金を賜りましたので、招待講演者や外国からの学生参加者への旅費の補助をすることができました。学生と若手の研究者による口頭発表のセッションを設けたことは、これまでの ICFIA にはなかった新しい試みでした。一つだけ後悔しておりますのは、開催時期が12月でしたので、参加者の皆様には寒い思いをさせてしまったことです。開催会場が福岡市の中央で交通の便が良く、会場費もホテルに比べると安く、人気が高い会場でしたので、気候の良い時期は予約でいっぱいであったのが原因でした。

このほか、JAFIA が関与した国際会議としては、5年おきにハワイで開催される環太平洋国際化学会議があります。この会議では、クリスチャン教授を中心として、米国、日本、タイ、オーストラリア、中国、インドネシアからのコ・オーガナイザーによる流れ分析のセッションが開催されています。このセッションの終了後には、JAFIA の主催でパーティーを開きました。毎回、手嶋紀雄先生にパーティー会場の予約をお願いしてご迷惑をおかけしましたが、参加者には大変好評でした。また、10年ごとに日本で開催されます ICAS でも JAFIA のメンバーが中心となって流れ分析のセッションが立てられ、海外からの招待講演が行われています。このように JAFIA が国際的に大きな貢献をするようになったのは、前々委員長の本水昌二先生、前委員長の酒井忠雄先生のご尽力によるものです。

JAFIA の目的は、本会規約にもありますように、FIA 法をはじめとする流れ分析法に関する学術と応用技術の進歩、普及を図ることです。本会員及び関係各位の皆様のこれまでのご尽力のおかげで、本会の目的を達成すべく多くの成果が得られております。実際、FIA 法の JIS 化や J.FIA の J-STAGE 登載などが実現しています。また、日本初の新しい FIA 法や新しい FIA 装置が開発されました。今後も手嶋紀雄先生を委員長として、JAFIA の会員及び関係各位の皆様がますます国際的にも活発な活動を続けられることをお祈りいたします。

最後になりましたが、私の委員長在任中の J.FIA 編集委員長として会誌の質の向上にあたっていただきました長岡勉先生並びに田中秀治先生に感謝申し上げます。また、事務局として本会の運営や会計などを務めていただきました石松亮一先生に御礼申し上げます。